

《朝の聖書から》今朝の聖書箇所は『ルカ福音書』21:1~9で、この福音書の最後に近いところになります。“レプタ二つ”の物語として有名です。たどてではなく、イエス様が御覧になって、“弟子達に教えられた”出来事です。この箇所は9節にあるように“戦争と騒乱とのうわさを聞くときにも、おじ恐れるな。こうしたことはまず起らねばならないが、終りはすぐにはこない”という具合に終末についての教えと心構えについての教えとにつながっています。この終末の預言はマタイ福音書にもマルコ福音書にも出てくる、大切な教えになっています。慰め、励まし、約束がこのイエス様の目的(預言)であり、起こることを直接予告しているものではないことに注意して読み進める必要があります。次に気を配らねばならないのは“言われた、「よく聞きなさい。あの貧しいやもめはだれよりもたくさん入れたのだ。」”と3節において、終末の預言と、貧しい“やもめ”への賛辞と、宮への讚美をする人々との関係を、神殿滅亡と世の終わりとの関係に、強く結び付けている点です。宮は価値の象徴でした。言い換えると、当時そこには正しい、行ないとしての信仰の象徴もあったのです。大どんでん返しが神の国とともにやってくる、いや、やって来ている、だから“恐れるな”と繰り返し励まされるのです。次に7節で弟子達は“先生、では、いつそんなことが起るのでしょうか。またそんなことが起るような場合には、どんな前兆がありますか。”と尋ねていることに私たちの注意が集まります。確かな印を私達も欲しいのです。しかしイエス様は、具体的な事実を予知されるのではなく、“このようなものではない”ということをもって教えています。当時のユダヤ世界、また初期キリスト教の世界では“偽キリスト”やその働きが沢山あり、人々を惑わせていたことが判ります。何があってもイエス様の教えがどんなにか、私達の心を平安にしてくれるものであるかを知りましょう。真剣に捧げられた小さなささげものが、余裕の印のように、そして、余裕のあるものは、その持っているものの全てを捧げるべきであると、私たちの知っていることを語られ、そのことは実は難しいのだとも、教えておられるのです。

週報

2007年 1月 28日



主の業に励もう コリント15:58

日本フリーメソジスト

清水草薙キリスト教会

教会学校	毎日曜日	午前 9:00
礼拝式	毎日曜日	午前 10:30
	(聖餐式 第一日曜日)	
夕礼拝式	毎日曜日	午後 7:00
エステル商会	毎水曜日	午前 10:30
聖書研究祈祷会	毎水曜日	午後 7:00
ホームページ	http://kusanagi.church.jp/	

〒424-0885

静岡県清水区草薙杉道3丁目2-26

☎0543-45-4070 E-Mail grace@big.jp

牧師 村上定幸